お四国ゴルフかわら版

2008.7.15

第31号

発行
四国ゴルフ連盟
〒790-0921
愛媛県松山市福音寺町55-1
電話 089-990-3260
FAX 089-990-3261

第28回四国女子アマ選手権

大会初、中学生が優勝

濱（徳島）14歳　二宮（今治）に3打差

平成20年度の四国の最強アマチュアの座を争う四国女子アマ、四国アマ両選手権大会は5、6月に開催され、女子アマは中学3年、四国アマは高校2年生がそれぞれ優勝、最年少制覇の記録を塗り替えて四国にもジュニアチャンピオン時代の到来を告げる結果となった。

第28回四国女子アマ選手権（5月22・23日、高知ゴルフ倶楽部、6015ヤード、パー72、67人参加）

雨に悩まされることの多かった大会だが、今年は2日間とも好天に恵まれた。競技会場の高知GCは、四国で二番目に開場の古い歴史と難易度の高さで知られる。

初日、イーブンパー72で単独トップに立った徳島県の立江中3年濱美咲選手（徳島C）が首位の座を守り切り、通算3オーバーの147で初優勝した。14歳の中学生チャンピオン誕生は、同大会史上初めてで、最年少Vの記録を大幅に塗り替えた。

最終日はジュニアとベテランの対決ラウンドとなった。濱選手と1打差の2位につけた二宮薫選手（今治）とが激しく競い合い、インの10番でついに並んだが、15番で再び差がつき、濱選手が上がり2ホールで連続バーディーを決めて激戦にピリオドを打った。

3打差の2位に終わった二宮選手は今年48歳。依然、衰えを見せぬ強さと底力で日本女子アマ連続出場の記録を18回に伸ばしたのは立派だった。

昨年度優勝の二宮歌奈子選手（今治）は8位に終わった。最終成績は次のとおり。

①濱美咲（徳島）147②二宮薫（今治）150③濱本凪紗（スカイベイ）152④箕手愛美（同）153⑤坂本優里（エリエール松山）154、世古麻由（スカイベイ）同＝以上日本女子アマ出場選手＝堀奈津佳（徳島）154⑧二宮歌奈子（今治）155、岡村咲（四国）同

濱美咲選手の話　初めての優勝だけにとてもうれしい。高麗芝のグリーンには不慣れなので練習に時間をかけた。それが結果的に優勝に結びついたと思う。

◇

第50回日本女子アマ選手権（6月24―28日、広野GC）

四国からは7選手が出場したが全員予選落ちした。なお、マッチプレーによる決勝は18歳同士の対決となり森桜子選手（扶桑）が2年ぶり2度目の優勝。10代選手のVは9年連続。

優勝カップを手に笑顔の濱選手

四国アマは高2生16歳

松山（スカイベイ）12アンダーの大会新

第28回四国アマ選手権（6月11―14日、高松グランドカントリークラブ、6831ヤード、パー72、181人参加、カットライン156S）

初日を除き晴天、無風の好コンディション。四国のアマチュア王座と日本アマ出場切符をかけての激戦が展開された。

この結果、16歳の明徳義塾高2年松山英樹選手（スカイベイ）が大会記録の通算12アンダー、2位に5打差をつけ初優勝、2年前の第26回大会で初の高校生チャンピオンとなった片岡大育選手（当時、香川西校3年17歳）の最年少V記録を更新した。

松山選手は初日、いきなり67のアンダーでトップ発進、その後も絶妙なショートゲームでピンチをしのぎ首位をキープ、その冷静で粘り強いプレーが印象的だった。

最終日も71とアンダーパーを重ね、2位以下の追撃を寄せつけずトータル276の完全優勝を飾った。

高校、大学勢が上位を占める中で58歳の中山陽生選手（土佐）をはじめ冨永敬選手（宇和島）崎山俊紀選手（今治）の50代トリオの健闘は高く評価されよう。

また、連覇が期待された昨年度チャンピオンの前田和宏選手（徳島、東北福祉大2年）は6位タイに終わった。最終成績は次のとおり。

①松山英樹（スカイベイ）276②皆本祐介（レオマ高原）281③原敏之（新琴南）286④前田真秀（徳島）287、冨永敬（宇和島）同⑥山中陽生（土佐）288、前田和宏（徳島）同、崎山俊紀（今治）同⑨谷口国博（鳴門）289、木下稜介（詫間）同、二宮慎堂（今治）同＝以上日本アマ出場選手

松山英樹選手の話　ショットの調子は良くなかったが、アプローチでカバーできた。プレー中に緊張を感じなかった。優勝を意識したのは、最後の50センチのパットを入れたときだった。

◇

第93回日本アマ選手権（7月8日～12日、北海道クラークCC）

四国から11選手が出場、松山英樹選手（スカイベイ・明徳義塾高2年）がトーナメント戦に残ったが16位に終わった。

4日間をアンダーパーで優勝した松山選手

ジュニア勢強し

08年シーズン　波乱の開幕

四国ゴルフ連盟の平成20年度シーズンは、台頭めざましいジュニア若年勢の最年少優勝ラッシュで波乱の幕開けとなった。

四国女子アマ選手権の新女王、濱美咲さんは14歳。四国アマ競技の覇者、松山英樹君は16歳。ともに、まだあどけなさの残る年ごろだが、その勝ちっぷりは見事でベテラン顔負けの冷静さ、勝負強さで完勝した。今後の成長が期待される。

人気と実力の宮里藍さんがプロツアーで初優勝し周囲を驚かせたのは、18歳の高校3年の時だった。あれから5年、同じジュニアでもさらに若い世代が続々登場、最年少Vの記録を更新している。今年の全国地区連の女子アマ選手権競技では、四国を含め一度に3人の中学生チャンプが誕生している。

圧巻は昨年、並居るプロ選手を抑えツアーを制した「ハニカミ王子」の石川遼君。わずか15歳の高校1年生だった。ジュニアの「開花年齢」が下がってきたようだ。

こうした変化の背景にはジュニアを取り巻くゴルフ環境が大きく改善され、子供とゴルフの敷居が低くなったことがあげられる。

日本ゴルフ協会のジュニア会員数が昨年、1万人を突破、中でも小学生の増加が顕著だった。つまり児童への普及が進んだ証拠だ。

若くて強いジュニア選手を輩出している沖縄、その成功の秘密は育成システムがうまく機能しているからだという。四国ゴルフ連盟もジュニアゴルファーの普及、育成へ向けさらなる努力が求められている。

ネット63で松本さん

春のグランドシニア会

四国ゴルフ連盟の加盟クラブ会員による「四国グランドシニア会」の平成20年度第53回春季競技は5月下旬、徳島県阿波市のJクラシックGCで開かれた。

好天に恵まれ77人が参加し男性5510ヤード、女性5181ヤード（ともにパー72）で元気いっぱいのプレーを展開、この結果、73歳の松本忠夫さん（錦山＝写真）がグロス87、ハンディ24、ネット63の好スコアで初優勝した。

また、78歳の西川亨さん（土佐）が2番ホール113ヤードでホールインワンをマークしたほか、81歳の岡林大一郎さん（錦山）がグロス76でエージシュートを達成した。岡林さんによると、プライベートプレーを含めエージシュートは今回で330回目という。成績は次のとおり。

①松本忠夫（錦山）グロス87、ハンディ24、ネット63②高橋英雄（徳島）95、36、63③笹木茂（同）77、11、66④高崎英夫（錦山）80、13、67⑤藤本明正（チサン北条）77、10、67

ギロチン

戦時下のゴルフ

太平洋戦争中、日本ではゴルフはどんな扱いを受けたのでしょうか。昭和7年には全国に約60ヵ所のゴルフ場がありましたが、日中戦争が深刻化するにつれて締め付けが強くなったのは事実です。

ゴルフ場が食料増産の場に変わり、また30歳以下の国民にゴルフが禁止されたので、学生大会がなくなりました。ゴルフコースはイモ畑か軍隊の演習場となり、用語も日本語に変えるよう命令が出ました。

それ以前から一部で日本語化が考えられていましたが、クラブは棒、ボールは玉、バンカーは砂場、ゴルフ場は打球場。その上にゴルフ場にも税金がかかり、はじめは10％程度だったのが次第に高くなって、最後は250％にもなり結局は廃止せよと言うことでした。

兵器増産のため金属類の回収が叫ばれメダル、クラブのアイアンや銀製カップは全て供出させられました。

学生ゴルフの最後は昭和15年の7、8月夏休み中に第6回大学リーグ戦、オール帝大対私大のマッピレイ、大学選手権、また最後には1日4ラウンドの学生耐久競技を行い、20人が参加して明大の久保瑞穂選手が最終ラウンドを70で回りました。

それでも農園にならなかったコースの片隅に残った2、3ホールで国民服、ゲートル姿でゴルフをする人がいて最後までゴルフの火は絶やさなかったのです。

おらが倶楽部でござる

其の三十二　こんぴらレイクサイドゴルフ倶楽部

93歳翁の夢　ゴルフが長寿の特効薬
満濃の畔に

まずは左の写真にご注目。夏の日射しを浴びて群青色に光る満濃池。万緑の樹林に挟まれ、池添いに伸びる芝生の帯。カラー写真でないのが残念なわが倶楽部「東」「西」コース（いずれも昭和51年開場）の写真です。いつごろの撮影かは不明ですが、左上に写っているのが造成中の県立森林公園と思われるので昭和62年前後の空撮でしょう。平成3年開場の「西」コースは、まだ深い樹林の中でした。

3コースとも個性的

3コースとも丘陵地の地形を巧みに生かした個性的な設計。「東」はトリッキー、「西」がタフ、「中」は頭脳を使う攻略で、と変化に富んだ27ホールです。

1300年の歴史を誇る日本一の満濃池に寄り添うように広がる「東」「中」コース

高齢化時代に入り、健康づくりのためのゴルフに熱中するシニア層が増えましたが、今から半世紀も前、60代から本格的にゴルフを始めて99歳の天寿を全うした人物がいます。当倶楽部の生みの親初代理事長の故四角誠一翁です。

明治26年生まれの坂出市出身。大阪ガス副社長で引退、67歳で請われて関西の名門茨城CCの理事長に就任10年。その間、日本ゴルフ協会（JGA）理事や関西ゴルフ連盟理事長などの要職を歴任、大衆化時代を迎えた戦後ゴルフ界の舵取りに一役買った人。

JGAが平成6年に出版した70年史の巻末に、名選手やゴルフ界のリーダーたちに混じって四角翁の名前が紹介され最後に「JGA理事時代、ゴルフを国体種目にと訴えた」と書き添えてありました。

スポーツとしてのゴルフの価値を確信していた翁にとって国体競技から除かれていること自体、納得できなかったに違いありません。故郷でのコース造りは、この無念さの延長上にあったのでしょう。良質のコースをつくり、県民の健康増進を図ってゴルフを国民のスポーツとして認知させたい―この熱い思いが、わが倶楽部に今も込もっているのです。

昭和51年、計画よりも2年遅れで待望の「東」「中」コースがオープンしました。四角翁83歳の秋でした。以来、大阪から毎月来場。まだ乗用カートのないころ、歩いて元気にラウンドを楽しんでいたと聞きます。

90歳からが絶好調

加齢とともにますますゴルフ生活は快調で、77歳で初のエージシュートを達成、80代では数知れず、90歳を超えてからは92歳で3度目を記録。その時の新聞のインタビュー記事が残っていました。

「とにかく健康と長寿が私の願い。ゴルフは弱りがちな足腰を鍛え直すのに最適」と語り、90代になっても年間80回、月平均約7回のコース通いだったとか、いやはや驚きの一語に尽きる思いでした。

翁はまさに「ゴルフが長寿の特効薬」ということを身をもって証明したわけです。今年は女子アマ、四国アマ選手権ともジュニア優勝。私も県ゴルフ協会のジュニア委員なので育成事業に関心があります。今後も四角翁の熱い思いを胸に明日を担うジュニア育成に協力したいと考えています。

（早馬淳也・こんぴらレイクサイドゴルフ倶楽部支配人）

こんぴらレイクサイドゴルフ倶楽部
〒769-0303　香川県仲多度郡まんのう町七箇4130
TEL:0877-77-2234　FAX:0877-78-3260

お四国随想

高野山のこと

手島晧一

八十八ヵ所を廻ったあと高野山にお礼参りに行くことが習慣のようになっているが、なぜだろう。また、何のお礼なのだろうか。無事に廻れたことへのお礼なのだろうか。

昔はこんなことは無かったと思う。八十八ヵ所を廻ること自体が大変だったのに、終わった後に高野山まで行くことはほとんど不可能だと思われる。

昔は無かったことが、いつごろから始まったのだろう。聞いてみたが誰も知らない。今のように交通の便が良くなってから始まったのではないかと思っている。

そもそも高野山と八十八ヵ所とはどんな関係があったのだろう。一つは空海が作ったとされる八十八ヵ所、片方は空海そのものでもある高野山だ。昔はどこから行くにしても不可能に近い行為だと考えられる。

特に四国から行くとすれば海を渡らねばならなかった。弘仁10年（819年）嵯峨天皇の許しを得て高野山に真言密教の根本道場を造り、空海はここに入定し「心は東寺に、体は高野山に」の有名な言葉どおりに高野山の奥の院に眠っている。

その高野山に参ることは今なら簡単だが、昔は八十八ヵ所参りをする以上に困難なことだったであろう。

麓までたどりついても、そこから高野山に登るのが大変だった。昭和4年に南海電鉄高野山線が極楽橋まで延長され、翌年に高野山ケーブルが完成してからは誰でも登れるようになった。

国家、社会の鎮護救済と個々の即身成仏を求めた空海の教えは、ここ1200年間引き継がれてきた。平安中期に落雷によって壇上伽藍が焼失、衰頽していたが、藤原道長が摂関家として初めて高野山に登ると白河天皇ら皇族、貴族が参詣し、鎌倉幕府以後は幕府の庇護のもと武士たちの信仰を受け高野聖の活躍もあって宗派を超えた霊場としての性格を強めてきた。

明治になってからは廃仏毀釈を巧みに切り抜け、昭和21年に金剛峰寺を総本山とする高野山真言宗を設立、独立宗派として空海の法灯を守り続けてきた。

しかし、八十八ヵ所が終わってからのお礼参りだけは、どうにも頷けないものがある。おそらく昔のお礼参りは、近くの菩提寺やお宮に参ったことだと思う。またそれで十分だと考える。あくまでも高野山参りは、交通の便が良くなったから出来たものと考えられる。

（四国ゴルフ連盟常任理事）

お四国 味のクラブ対抗

味彩御膳（タカガワ西徳島GC）

彩り鮮やか夏御膳

今春から倶楽部名が変わったのを機にレストランメニューも様変わり。その中で溝渕栄一グループ総料理長がお勧めの御膳。

前列左から、変わり鉢（かつおタタキ）天ぷら（エビと季節野菜）小鉢（地物野菜の煮物）後列左から海鮮ちらし（マグロ、ウナギ、エビ）冷やしうどんの5品。

入場者の大半がシニア層なので品数多く量控えめになっている。魚介類、野菜を中心に食材は地物を使い、ソース類やポン酢まで自家製を心がけている。

「今年中には新しいクラブハウスも完成するので料理も一新させたい」とは溝渕総料理長。一人前1700円。

甘露煮とろろ飯定食（久万CC）

食材すべて地元産

食材全部が地元産という人気の一品。これまでは月2回に限っていたが、今年からは毎日の定番メニューになった。

まず甘露煮のアメノウオは町内の渓流で育てた15センチ前後の2年もの。素焼きにし地元美川の緑茶に調味料を加えただし汁で6時間煮込む。骨まで柔らかく食せる。

とろろの山芋は3年栽培の地もの。赤ん坊の腕ほどの芋をすりおろし、久万味噌で味を整える。ご飯はもちろん久万ブランド「清流米」。夏場、食欲の落ちた時でも熱々のとろろ飯は「何杯でも食べられます」とはレストランの名智也寸志料理長。小鉢、味噌汁がついて一人前1260円。

編集を終えて

81歳でエージシュート78歳がホールインワン―先ごろ開かれた20年度四国グランドシニア会の春季大会で2人の後期高齢ゴルファーがやってくれた快挙です▼日本の男子プロでもエージシューターは中村寅吉、青木功の2人しかいないようです。春季大会での81歳氏は四連のミッドアマ競技などでもV経験のあるシングルさん。過去にプライベートラウンドで達成した回数を含めるとエージシュート300回を超えるとか▼医療費がかかり過ぎると老人はとかく邪魔者扱いだが、こんな元気な後期高齢者もいます。ゴルフと健康は車の両輪。精いっぱいゴルフを楽しみ健康老人ぶりをアピールしましょう。

（T）